

## 平成26年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年9月13日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 アイフリーク ホールディングス  
 コード番号 3845 URL <http://www.i-freek.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役会長 兼 社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 管理担当取締役  
 四半期報告書提出予定日 平成25年9月13日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 永田 万里子  
 (氏名) 猪俣 英夫

TEL 092-471-5213

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年3月期第1四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第1四半期	418	24.9	△121	—	△111	—	△129	—
25年3月期第1四半期	334	△43.2	△85	—	△86	—	△86	—

(注) 包括利益 26年3月期第1四半期 △146百万円 (—%) 25年3月期第1四半期 △92百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第1四半期	△1,269.22	—
25年3月期第1四半期	△885.94	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第1四半期	1,381	359	25.7	3,487.89
25年3月期	1,525	500	32.5	4,865.83

(参考) 自己資本 26年3月期第1四半期 355百万円 25年3月期 496百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年3月期	—	—	—	—	—
26年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
通期	2,555	61.7	△192	—	△193	—	△195	—	△1,939.34

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注) 第2四半期累計期間の業績予想については、業績管理を年次のみで行っているため、記載を省略しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期1Q	101,966 株	25年3月期	101,966 株
② 期末自己株式数	26年3月期1Q	3 株	25年3月期	3 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期1Q	101,963 株	25年3月期1Q	97,673 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この決算短信開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表の監査手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる過程及び業績予想のご利用に当たっては、P.2「1. 当四半期決算に関する定性的情報」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要 .....	4
3. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性情報

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政権交代における経済・金融政策の期待感による円安の進行や株価上昇など背景に、景気は緩やかながら回復傾向を維持しております。一方で、欧州政府債務危機の影響による世界的な金融不安、新興国の経済停滞など、依然として先行きは不透明な状況で推移いたしました。

このような状況の中、当社グループは、平成25年4月1日に会社分割を行い純粋持株会社体制へ移行し、各事業会社への権限委渡による経営のスピード化・効率化を図り、当社グループの持続的利益成長を目指すための布石といたしました。当社グループは経営理念である「人々の想いが伝わる・繋がる・広がる 世の中の日常に喜びと感動を提供します」というビジョンのもと、グループ一丸となり事業に邁進してまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は418,172千円（前年同期比24.9%増）、営業損失は121,152千円（前年同期は85,169千円の営業損失）、経常損失は111,222千円（前年同期は86,244千円の経常損失）、四半期純損失は129,413千円（前年同期は86,531千円の四半期純損失）となりました。

各事業及び領域における業績の概況は、以下のとおりであります。

なお、当第1四半期連結累計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

#### ①モバイルコンテンツ事業

当該事業には、コミュニケーションコンテンツ領域とファミリーコンテンツサービス領域があります。

##### (コミュニケーションコンテンツ領域)

この領域を担う株式会社アイフリーク モバイルは、国内外にモバイルコンテンツ等のサービス提供を行っております。

この領域においては、スマートフォン市場が拡大しており、当社のスマートフォンへの対応は順調に進んでおります。具体的には、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモが提供するスマートフォン向けコンテンツ配信サービス「スゴ得コンテンツ」ヘデコメ<sup>®</sup>・絵文字・スタンプなど10万点が取り放題の「デコレ for スゴ得」が平成25年5月に採用される等、順調に事業が進捗しております。これによりアイフリークモバイルのスマートフォンコンテンツは、国内主要通信3キャリアが運営する全ての定額コンテンツ配信サービスにおいて、サービス提供が開始されました。このように、通信キャリアとの連携をより強化しながら、サービス提供を進めております。また、平成24年6月にリリースした写真の加工やデコレーションができるアプリ「photodeco」「photodeco+（プラス）」が、全世界累計で60万ダウンロードを達成し、課金化への対応も順次進めております。さらに、新たな取り組みとして、平成25年6月にスマートフォン用無料通話・無料メールアプリ「カカオトーク」へ、当社がデザインしたオリジナルキャラクタースタンプのグローバル配信を開始いたしました。当社グループの強みであるクリエイティブ力を発揮し、日本国内だけでなく海外マーケットへの展開も進めてまいりました。

##### (ファミリーコンテンツサービス領域)

この領域を担う株式会社キッズスターは、ファミリー向け電子絵本を中心としたサービス提供を行っております。

この領域においては、BtoCのビジネスモデルにおいて、日本で初めて定額で絵本が読み放題となるアプリ「森のえほん館」をリリースいたしました。本アプリリリース後、約3カ月で34万ダウンロードを記録するなど、サブスクリプション（定額課金）モデルがユーザーの利用促進に繋がり、課金化に向けたサービスの構築が順調に進捗いたしました。本アプリは、2012年の「こえほん」に続き、モバイルプロジェクト・アワード2013（主催：モバイル・コンテンツ・フォーラム）においてモバイルコンテンツ部門 優秀賞を受賞いたしました。

また、BtoBtoCモデルとして、平成25年5月に企業スポンサーによる展開も視野にいたした知育アプリ第一弾、職業疑似体験型アプリ「なりきり!!ごっこランド」をリリースいたしました。

さらに、BtoC及びBtoBtoC両展開において、アプリがダウンロードされることにより、その登録会員の属性や行動履歴がデータベース化されており、より精度の高いデータベースマーケティング等を実施できるプラットフォームの構築を順調に進めております。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間におけるモバイルコンテンツ事業の売上高は217,899千円（前年同期比8.4%減）、セグメント利益は25,950千円（前年同期比57.5%減）となりました。

## ②Eコマース事業

当該事業を担う株式会社アイフリーク プロダクツ セールスは、美容・健康商材を中心とした商材の提供を行っております。

Eコマース事業においては、高収益商材であるプライベート商品ラインの強化及び自然派オーガニックコスメ・食品の開発を行い、収益基盤構築を順調に進めております。また、販売チャネル拡大のため、インターネット上での販売を行いながら、実店舗への展開を積極的に促進し、大手百貨店で販売するための準備も整えてまいりました。さらに、前期より進めてまいりましたコスト構造改革の一環として、事務所移転を行い、固定費削減を進めてまいりました。このように、本年度内において営業損益ベースでの改善を目標とし、欠損体質脱却に向けての布石を打ってまいりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間におけるEコマース事業の売上高は194,874千円（前年同期比101.8%増）、セグメント損失は36,125千円（前年同期は52,011千円のセグメント損失）となりました。

## ③決済サービス事業

当該事業を担うI-FREEK ASIA PACIFIC PTE. LTD. は、グローバル決済の提供を行なっております。

決済サービス事業においては、前期中に収益化へ向けた決済サービスのシステム構築が完了いたしました。今期からは収益化に向けた顧客基盤構築に向け、日本市場を重要なマーケットと捉え、営業活動を順次進めております。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間における決済サービス事業の売上高は5,398千円（前年同期は181千円の売上高）、セグメント損失は34,481千円（前年同期は17,042千円のセグメント損失）となりました。

（注）各社の社名、製品名、サービス名は各社の商標又は登録商標です。

## （2）財政状態に関する説明

流動資産は、前連結会計年度末に比べて136,452千円（11.3%）減少し、1,068,023千円となりました。これは主として、売掛金及び受取手形の増加8,014千円、その他の流動資産の増加100,751千円、現金及び預金の減少209,098千円、仕掛品の減少8,058千円等によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて6,678千円（2.1%）減少し、306,429千円となりました。これは主として、投資その他の資産の増加9,772千円、有形固定資産の減少1,094千円、無形固定資産の減少15,357千円によるものであります。

繰延資産は、前連結会計年度末に比べて485千円（6.3%）減少し、7,289千円となりました。

以上の結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて143,617千円（9.4%）減少し、1,381,742千円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べて20,336千円（3.0%）増加し、709,680千円となりました。これは主として、その他流動負債の増加28,205千円、買掛金の減少16,955千円、1年内返済予定の長期借入金の減少8,571千円等によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて23,454千円（7.0%）減少し、312,503千円となりました。これは主として、長期借入金の減少23,280千円等によるものであります。

以上の結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて3,118千円（0.3%）減少し、1,022,184千円となりました。

純資産は、前連結会計年度末に比べて140,498千円（28.1%）減少し、359,558千円となりました。これは主として、四半期純損失の計上により利益剰余金が129,413千円減少したことによるものであります。

## （3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点において、平成25年5月15日に公表しました業績予想から変更はありません。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### （1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第1四半期連結累計期間において、平成25年4月1日付で持株会社へ移行いたしました。新設分割の方式の会社分割を実施し、株式会社アイフリーク モバイル、株式会社キッズスター、株式会社アイフリーク プロダクツ セールスの3社を新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

### （2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### （3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

### （4）継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当社グループは、前連結会計年度において営業損失及び営業キャッシュ・フローのマイナスを計上し、2期連続の営業損失及び営業キャッシュ・フローのマイナスを計上しております。

また、平成25年6月27日付適時開示「当社連結子会社における不明瞭な取引、平成25年3月期有価証券報告書提出遅延、当社株式の監理銘柄（確認中）への指定見込み及び第13期定時株主総会目的事項並びに延会開催に関するお知らせ」に記載のとおり、当社の海外子会社において、当社取締役が関与した不明瞭な資金の流れが判明し、それを受けて行われた調査委員会による調査において、同取締役が関与した国内における当社の仕入先から、当社の得意先へ商品の現物を直送卸の形で納入する取引において不明瞭な取引等が新たに発見され、前連結会計年度において不適切な会計処理が行われていたこと等の事実が明らかになりました。

本調査の詳細につきましては、平成25年7月30日付適時開示「調査委員会の調査結果及び当社の今後の対応について」及び平成25年8月30日付適時開示「調査委員会の追加の調査結果及び当社の今後の対応について」をご参照ください。

なお、有価証券報告書につきましては、平成25年9月2日付適時開示「第13期 有価証券報告書の提出に関するお知らせ」に記載のとおり、平成25年9月2日に福岡財務支局へ提出しております。

これら要因により、当社グループは、決済サービス事業の計画の遅延、企業イメージの低下の懸念が生じており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在していると判断しております。

その改善策として、当連結会計年度以降、営業利益を確保すべく当社グループは、経営と事業執行の役割を明確にすることによって、グループ全体の持続的利益成長を図るべく、事業部制組織体制から持株会社制に移行し、外部企業との提携や事業再編など機動的な意思決定を可能とする体制を整えるとともに、徹底した固定費の削減の一環として、本社事務所の移転、人員削減等を実施しております。また、当面の事業資金の確保はなされており、取引金融機関との関係も良好な状態であるため、少なくとも今後1年間の資金繰りに重大な支障をきたすような状況にはありません。

以上のことから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しておりますが、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断し、「継続企業の前提に関する注記」の記載には至りませんでした。

なお、文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

2. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	707,130	498,031
受取手形及び売掛金	280,842	288,857
有価証券	20,051	20,055
商品	69,031	64,095
仕掛品	8,311	252
原材料	21,663	22,520
その他	118,603	219,354
貸倒引当金	△21,158	△45,144
流動資産合計	1,204,476	1,068,023
固定資産		
有形固定資産	17,182	16,088
無形固定資産	160,091	144,734
投資その他の資産	135,833	145,606
固定資産合計	313,108	306,429
繰延資産	7,774	7,289
資産合計	1,525,359	1,381,742
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	53,693	36,738
短期借入金	400,000	400,000
1年内返済予定の長期借入金	110,267	101,696
未払法人税等	475	18,132
その他	124,908	153,114
流動負債合計	689,344	709,680
固定負債		
社債	200,000	200,000
長期借入金	130,572	107,292
資産除去債務	3,799	3,808
その他	1,586	1,402
固定負債合計	335,957	312,503
負債合計	1,025,302	1,022,184

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	533,151	533,151
資本剰余金	533,156	533,156
利益剰余金	△573,333	△702,746
自己株式	△34	△34
株主資本合計	492,939	363,526
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	814	△3,240
為替換算調整勘定	2,380	△4,650
その他の包括利益累計額合計	3,194	△7,891
新株予約権	3,923	3,923
純資産合計	500,057	359,558
負債純資産合計	1,525,359	1,381,742



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)
売上高	334,725	418,172
売上原価	184,236	311,977
売上総利益	150,488	106,195
販売費及び一般管理費	235,658	227,347
営業損失(△)	△85,169	△121,152
営業外収益		
受取利息	1,734	708
受取配当金	—	1,291
為替差益	—	6,749
違約金収入	—	2,508
有価証券売却益	831	—
その他	815	491
営業外収益合計	3,381	11,748
営業外費用		
支払利息	1,520	1,333
社債発行費償却	485	485
為替差損	2,449	—
その他	0	—
営業外費用合計	4,456	1,819
経常損失(△)	△86,244	△111,222
税金等調整前四半期純損失(△)	△86,244	△111,222
法人税等	287	18,190
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△86,531	△129,413
四半期純損失(△)	△86,531	△129,413

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△86,531	△129,413
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,225	△12,730
為替換算調整勘定	△3,888	△4,650
その他の包括利益合計	△6,113	△17,380
四半期包括利益	△92,645	△146,794
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△92,645	△146,794

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額(注)2
	モバイルコン テンツ事業	Eコマース 事業	決済サービス 事業			
売上高						
外部顧客への売上高	237,985	96,557	181	334,725	—	334,725
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	237,985	96,557	181	334,725	—	334,725
セグメント利益又は 損失(△)	61,046	△52,011	△17,042	△8,008	△77,161	△85,169

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以降に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第1四半期連結累計期間の各セグメント利益又は損失に与える影響はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額(注) 2
	モバイルコン テンツ事業	Eコマース 事業	決済サービ ス事業			
売上高						
外部顧客への売上高	217,899	194,874	5,398	418,172	—	418,172
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	217,899	194,874	5,398	418,172	—	418,172
セグメント利益又は 損失(△)	25,950	△36,125	△34,481	△44,656	△76,495	△121,152

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前第2四半期連結会計期間から、「その他」に含まれていた「決済サービス事業」について量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第1四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。